

# 良日持ち性ダリア新品種の特性

## ～ダリアの消費拡大に向けて～

農業・食品産業技術総合研究機構が交配により作出したダリア新品種について、奈良県における栽培適応性を評価しました。試験の結果、既存品種と同等以上の切り花品質と生産性で、既存品種より優れた日持ち性を有していました。

### 1. 背景と目的

奈良県ではダリアの球根および切り花の生産が盛んに行われています。ダリアの切り花は日持ちが悪い品種が多く、日持ち性の向上が消費拡大のための課題となっています。

この課題解決に向け、農業・食品産業技術総合研究機構（以下、農研機構）では良日持ち性ダリア、エターニティシリーズの育種を進めています。これまでに作出された3品種に加え、‘エターニティピーチ’、‘エターニティシャイン’（図1）が新たに育成されました。種苗販売開始後における県内への普及を図るため、奈良県での冬春期作型における栽培適応性を調査しました。



図1 新品種の外観  
左：‘エターニティピーチ’、右：‘エターニティシャイン’

### 2. 研究成果の概要

‘エターニティピーチ’は花色が桃色で頭花の中心に向けて徐々に白く抜ける、花径11cmの小輪系品種です。一番花の到花日数は80日で、中早生品種の‘ミッチャン’と同等です。生育初期から茎曲がり小さく直立して生育し、頭花は上向きに開花します。‘エターニティシャイン’は花色が濃い桃色で、花径13cmの中小輪系品種です。早生品種の‘かまくら’よりも開花は

早く到花日数は70日で生産性に優れています。いずれの品種も頭花中心部の管状花が露出し商品価値が著しく低下する「露心花」の発生が少なく、茎曲がりや奇形花が生じないことから県内の冬春期作型に適した品種と言えます。

‘エターニティピーチ’の日持ち日数は、観賞時の生け水が蒸留水で9.0日、品質保持剤では11.3日となり、いずれの条件でも既存の主要品種よりも長くなりました（図2）。‘エターニティシャイン’は更に長く、蒸留水で10.3日、品質保持剤では14.3日で、同系色の‘ミッチャン’より3.0～4.5日長くなりました。

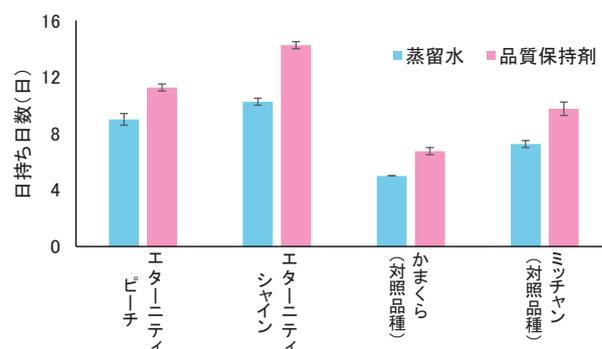


図2 各品種の日持ち日数  
観賞環境：気温23℃、相対湿度60%、照度1000lx、12時間日長  
品質保持剤：蒸留水にグルコース1%、イソチアゾリン系抗菌剤0.5 mL・L<sup>-1</sup>、硫酸アルミニウム50mg・L<sup>-1</sup>を添加  
縦棒は標準誤差を示す

### 3. 実用化に向けた対応

2024年度にはいずれの品種も葛城市での現地実証試験を予定しています。生産性に加え市場性を評価することで、新品種の速やかな普及に繋げていきたいと考えています。

（栽培・流通科 辻本直樹）